

産地パワーアップ事業の取組事例

(群馬県)

取組の概要

取組の概要 : 集出荷施設の再編集約
計画作成主体 : 太田市地域農業再生協議会
対象品目 : ほうれん草、小松菜、レタス、
キャベツ、ネギ、赤しそ、枝豆、
ニラ、水菜等
主な取組主体 : 新田みどり農業協同組合
成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減
助成金の活用 : 整備事業 (集出荷施設)

ポイント

- 2カ所ある集出荷施設を1カ所に再編集約することにより、集出荷コストの10%以上の削減。
- 加工用契約販売取引による安定収入(再生産収入)を確保することにより、栽培面積の維持。

地区の概要



産地の現状と目標

〈現状 : 平成26年度〉

予冷重量:3,539 t
(内、加工向け重量1,105t)
集出荷コスト:10,905円 / t

〈目標 : 平成30年度〉

予冷重量:3,539 t
(内、加工向け重量1,460t)
集出荷コスト:9,281円 / t



推進体制

- 地域の関係者(太田市、JAにっかみどり、群馬県農政部 蚕糸園芸課、東部農業事務所 農業振興課)が連携、協力して事業を推進。

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- 加工向け品目の内、レタスについては、実需者の要望により、MGG(マクナルドグローバルキャップ)に取り組んでいる。また、キャベツについては、土壌分析を行い、ミネラル栽培に取り組む。

事業効果

【集出荷コストの削減】
集出荷コストが10%以上削減される。

【加工向け栽培の拡大】
加工用契約販売の拡大により、安定収入を確保し、生産者の栽培意欲を向上させ出荷量を増大する。

